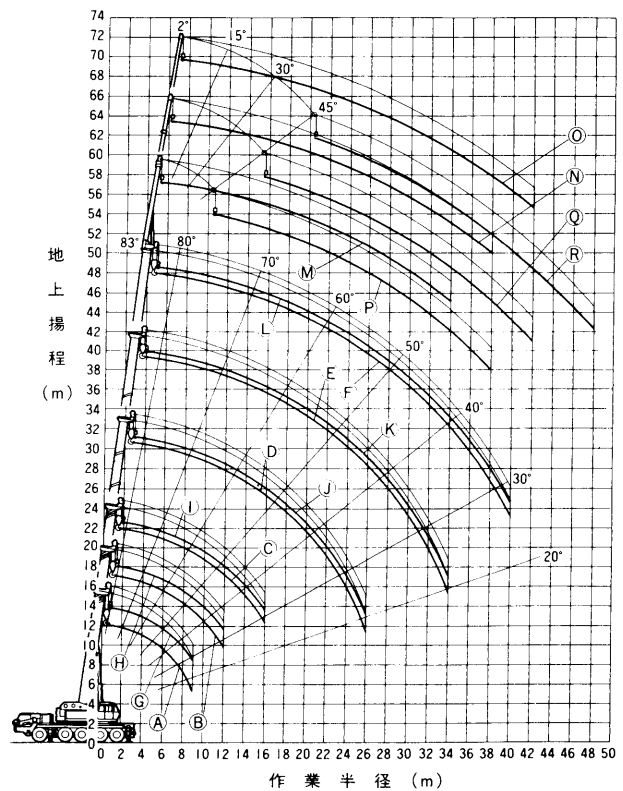
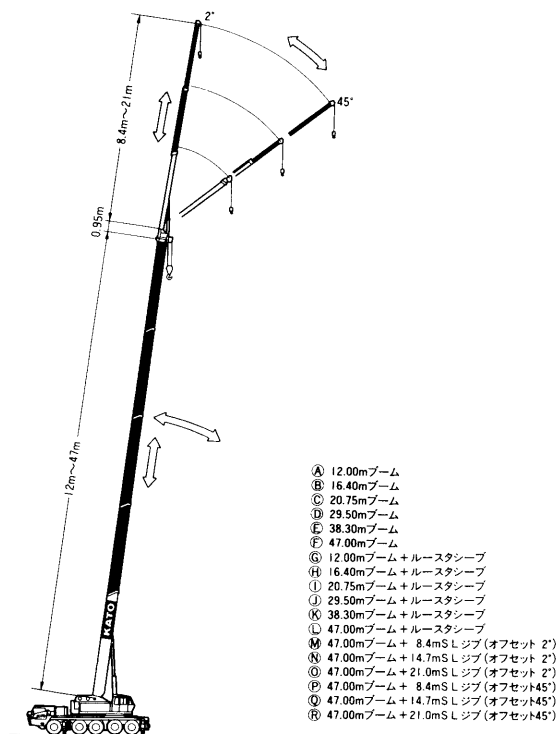


■作業範囲図



■定格総荷重表注意事項

- 1) 定格総荷重は水平堅土上において本機の保証できる最大荷重を示しており、フックその他のつり具等の重量を含んだ値です。尚、□の部分は、機械の強度によって定められています。
- 2) 定格総荷重は、アウトリガの張出幅とカウンタウエイトの取付状態により次の様に区分されます。
- 8) 作業状態別標準フックの重量、掛数は定格総荷重表の中に示されています。
- 9) 定格総荷重表以外の作業を行った場合及び正しい使い方をしなかった時は、転倒又は破損します。この場合は、本機の保証はいたしません。

性能区分

カウンタウエイト取付状態 アウトリガ張出幅	性能区分		
	クレーン装着	キャリア上格納	無
7.8m	A	B	C
6.9m	B	C	D
6.0m	C	D	E
5.1m	D	E	F
4.1m	E	F	G
3.2m	—	G	—

- 3) 定格総荷重表のブーム角度は、ブームと水平面のなす角度を示し、ジブ角度はブームとジブのなす角度を示します。
- 4) 作業半径は、ブームのたわみを含んだ実際値に基づいていますので必ず作業半径を基準として作業を行って下さい。但し、スーパーラフティングジブの作業半径は、47mブームにスーパーラフティングジブを装着してジブ作業を行った時の値を示し、その他のブーム長さでのジブ作業はブーム角度を基準として行って下さい。
- 5) ブーム長さ、ブーム角度、作業半径、ジブ角度が規定の値を越えた場合は、その規定の値と次の規定の値の定格総荷重のうち小さい方の定格総荷重に従って作業を行って下さい。
- 6) 定格総荷重表のブーム最小角度は、それ以下にブームを下げると無負荷でもクレーンが転倒したり、機械の破損につながる角度を示します。
- 7) ルースタシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりメインフックの重量を引いた値です。但し定格総荷重の限界を8000kgとします。

■ジブ付最小直角通路幅

